
常綠樹

惣羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

常緑樹

【著者名】

懇羅

NZ78699C

【あらすじ】

彼と暮らした部屋で、彼への思いを募らす陽菜陽菜の大好きな場所は常緑樹の見える窓辺。。。陽菜にとつての永遠とは？

「はあ……」

暖かな木漏れが差し込む午後、
自室の窓から外をみながら僕小さな溜め息をつく。
暖かな日差し、澄んだ空、澄んだ空氣、そして碧^{あお}。

秋も深まり、周りの樹々は色付いているところに、
その樹はまだ碧々《あおあお》とした葉をつけている。
あの頃と変わらず……

「かずや……」

不意に口をつく愛しい人の名前…
だが、返事はない…彼はもういない…。
部屋の情景も、窓から見える風景はあの頃と何ひとつかわらないの
に…

ただ、貴方がそばにいない…
あの日、寒かった…。

雪が降るんじやないかって、そしたら外に出るの嫌だねって、
あなたはそう言つてたね?
でも、その横顔は言葉の反面、凄く嬉しそうだったの覚えてる…
そんな和也^{かずや}の子供みたいなところ大好きだった…。
ずっと、ずっと…

一緒にいられるって信じてた…未来永劫

でも、永遠なんてどこにもなかつたんだよね?
だつて現にこうして貴方は私の前からいなくなつた…

貴方は消えてしまつた。

あの日、降り出した雪がうつすら積もつていて…
寒いから嫌だという貴方をムリヤリ連れ出して買い物になんか行かなきやよかつた。

思えばあの日が最後だつたね。

一人でこの常緑樹を見たのは…

私たちを離ればなれにしたのは赤…
薄く積もつた雪によく映える真紅の

…血液

たくさん…
たくさん…

道路を染めた…

あか…

和也はもうこの部屋にはいない…
二人の思い出の詰まつたこの部屋には、
私一人、独りぼっち…

『和也…愛してる』

だから、帰つてきて…
一人にしないで…

窓の外は碧あお
…

あの頃と変わらない碧あお
…

大好きな風景。

大好きな和也…

どちらも手にいれたいたて思つのはワガママ?
でも私の願いは一つだけ…

『かずやに帰つてきてほしい』

二人の思い出の詰まつたこの部屋に…
神様…

もしいるなんら…

お願ねがい…

彼に、和也に…

もう一度逢わせてください。

もう一度和也との景色を見させてください。

これは涙?私の涙?頬を伝う暖かい…

【ガチャ】

玄関の扉を開ける音?
足音が近付いてくる…
聞き慣れた足音…

和也？

貴方なの？願いが通じたの？神様はいるの？
最後の扉（部屋の）が開く…。

【キイツ】

「おかえりかずや！」

貴方が一瞬とまどいつ。

「陽菜…ただいま」

でも、私の大好きないたずらっ子のよつたな笑顔で貴方はいつてくれた。

「泣いてんの？陽菜？」

そういいながら和也はその大きな手で僕の涙を拭ってくれた

「かずやあつ」

たまらず和也に抱き付いた…

もう一度逢えたら言いたい」とはたくさんあつたのに、
思いが溢れて…何一つ言葉にならない

「どうしたんだよ？一体…」

そういうながら和也は私を強く抱き締めてくれた。
泣きじゃくる私をまるで子供をあやすようにすつと…

「かずや…かずやあ～」

上手く言葉がみつからない。

「馬鹿だな。そんなに泣くなよ。
どうしていいか分からなくなるだろ?」

そうこうと和也はキスをくれた。
優しくて、懐かしくて…

深い…

大好きな和也。

ただもう一度貴方に逢いたかったんだ。
逢つて伝えたかったんだ

《今でも貴方を愛している》

つて。

「陽菜、コーヒー飲む?」

「うん?」

炊事、洗濯すべて私がやつてたけど、

「コーヒーだけはいつも和也がくれた。」

それがなんだか嬉しくて、

よく和也にコーヒー作ってもらつたつけ

和也がくれてくれたコーヒー、

大好きなあの窓の前で飲もうか…

そう思つて窓辺に向かう。

「陽菜、お前ほんとに好きだな？」

「だつてここの暖かいもん。それになんか落ち着く…」

「猫みてえだな。だから、ずっとここのいたのか?ここで待つてた
のか?俺を…」

「そりゃ。かずや、ここの部屋からいなくなつちやうんだもん。ずっと
待つてたのに…」

そこから先は言葉にならない。

言いたかったのはこんなことじやない。

「悪かつたな…

もつと早くこの部屋に帰つてくれればよかつたな…」

違う、貴方が悪いんじやない

「かずや…」

貴方の悔しそうな顔を見ているのが辛くて
和也の首に両腕をまわした

『愛してゐる…アイシテル』

「抱いて…」

和也は私を抱いてくれた。
こんな私を愛してくれた
あの頃と変わらない貴方の腕、脣、瞳、髪、
貴方の躰からだ…

すべてが愛しくて涙が止まらない幸せな時…
でも、終わる時は来る…
そう、永遠なんてないのだから…。

—朝—

「陽菜？」

目を覚ました貴方が私の姿を探す…。

「かずや、こつち来て」

私は大好きなあの窓辺に貴方を誘つ…

「ああ、綺麗だな…」

目を細めて貴方がいう

「綺麗な碧ね…」

しばりくー一人で窓の外を眺めていた

「かずや……ありがと、帰つてきてくれて。」

「ん？」

「うれしかったよ? かずやと出合つて、愛した」と…幸せだつた。

「突然なに言ひ出すんだよ?」

「ずっと言えなかつたの、そばにいすぎて…おかしいよね。失つてから気付くなんて…」

「ま、仕方ないんじやねえの? 僕もやつだつたし」

「だからなんだとおもう。思いだけが残つてしまつたのは…」

「…それ以上は…聞きたくねえ」

「私の体はもうないのに…・・・」

「やめ…る」

「あの日私は、この大地から消えた・・・」

「やめてくれ」

「聞いて、かずや。」

「ひ・・・」

「もう時間がないの…

かずや、愛してた…「ううん、今でも愛してる。貴方と最後にこの景色を見られてよかつた。もう、思い残すことなんてないわ。」

そういうながら、私の体…魂は薄れしていく

「かずや、泣かないで?」

私は消えるけど、いつでも貴方のそばにいるから。
さよならはいわないよ。かずや…」

『愛してる』

(後書き)

処女作品だつたりします(、ー、A;) アセアセ
微妙なところは読み流してください(、ー、。)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8699c/>

常緑樹

2011年1月20日02時34分発行